

2023年10月14-15日

第50回日本肩関節学会、 第20回日本肩の運動機能研究会 に参加と研究発表をしてきました

参加者：鶴田 崇、南川 智彦

【学会参加の概要】

2023年10月14-15日にかけて、東京都新宿区の京王プラザホテルで開催された、第50回日本肩関節学会、第20回日本肩の運動機能研究会にて、当院のリハビリテーション科の鶴田 崇（理学療法士）、南川智彦院長が研究発表をしてきました。本学会は、日頃から肩関節を専門に臨床や研究に精通している日本全国の医師や理学療法士をはじめとするコメディカルらが参加する学会です。

【研究発表内容：発表者 鶴田 崇】

今回は、「投球障害肩における野球不完全復帰例の検討」というテーマで発表してきました。野球でボールを投げる時に肩関節に痛みが生じる投球障害肩の患者さんが、頑張ってリハビリを実施しても、全く痛みがなく、元のポジションで復帰する事ができなかった症例を経験することがありました。よって今回は、元のポジションで全く痛みがなく復帰した完全復帰例と前述の不完全復帰例の要因が何かを明確にする研究内容を発表してきました。

結果は、足部と肩関節の柔軟性に欠ける選手が全力投球時に痛みが生じ、8~9割程度でしか投げる事ができない、もしくは、ポジションを変更しなければ試合復帰できないなどの不完全復帰例に至ることが明らかになりました。

投球障害肩は、痛みが出ている箇所だけではなく他の箇所が原因で投球時痛が生じる事が多々あるため、非常に治療が難しい症例です。投球障害肩に対する当院でのリハビリは、下肢・体幹・上肢の全身に対して身体的機能のチェックを行い、完全復帰を目指してコンディションを維持する治療アプローチや指導を行います。今回の研究をもとに、個々の患者に合わせて治療アプローチを考慮し、全身で行う投球動作時に痛みが生じない、広い視野を持った治療提供とコンディショニングケアを施して行きたいと思えます。

